
ぼく、たっくん！○歳なの！

コーベ－コーベ－

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぼく、たつくん！。歳なの！

【Nコード】

N6946D

【作者名】

コーベークーベークー

【あらすじ】

たつくんはまだ小さな男の子。たつくんが約600文字で語っていく騙されたお話し。

たつくん4歳(1)

ぼく、たつくん！

4歳なの。

ぼくのね、始めて人生裏切られたなあって思ったのは、3才の時だったよ。

ママとパパがね、ぼくにくまの可愛い縫いぐるみをくれたんだ。

凄く可愛くて、ぼくとくましゃんはいつも一緒だったんだよ。

ぼくはくましゃんの虜だったからね。

でもぼく、4歳で始めて騙されたって思ったんだよ。

ぼくはママと動物園にいったんだ。

「ほら、たつくん。くましゃんいたよ。」

ぼくは心が踊ったんだよ。

ぼくは縫いぐるみのくましゃんしか知らないから、いつも一方的に話し掛けてたでしょ。

だから今日は本物のくましゃんと一緒に仲良くなるつもりだったんだよ。

くましゃんに動物園を案内してもらったつもりだったんだ。

裏切られた気持ちになったよ。

くましゃん、ぼくのママよりデカイんだよ。

色は黄色じゃないんだよ。

くましゃんぼくを食べたそうな目でみてきたよ。

ぼくは今手に持つてくるくましゃんの縫いぐるみみて思ったよ。

このくましゃん（縫いぐるみ）はまだ子供なんだ。

大人になって黒色に変身したら僕を食べようと計画を立ててるんだよ。

間違いないよ。

僕はいつもくましゃんに騙されてたんだ。

え？何？

そのくまの縫いぐるみはどうしたかった？

そんなの決まってるよ。

手足をロープで巻き付けて動けなくしたよ。

僕もまだ4歳では人生終えたくないからね。

このくましゃんがいつ動きだすか毎日監視してるんだよ。

じゃ、ぼくはそろそろ眠くなつたから寝るよ。

おやすみなさい。

次は

「たつくん5歳。ウルトラマンに騙される」
みてね。

たつくん4歳(2)

ぼく、たつくん！
4歳なの。

ぼくは幼稚園児なんだよ。

ぼくの幼稚園ではウ。ト。マンが大人気なんだよ。

ぼくももちろんウルトラマンは好きだよ。

あんなにおっきくて僕らのために怪獣をやっつけてくれるんだもん。

カッコイイよね。

この前、たつくんパパとデパートの屋上でウ。ト。マンショーを見に行ったんだ。

嬉しかったなあ。

でも不思議だったんだよ。

ウ。ト。マンはデパートよりデカイはずなんだ。

僕はパパに聞いたんだ。

「パパ、ウル。ラ。ンはデパートより大きいはずだよ。今日くるウルトラマンは偽者なんじゃない？」

するとパパは教えてくれたんだ。

「たつくん、今日来るウ。ト。マンは本物では無いんだよ。でもね、たつくん。今日来るウ。トラ。ンは凄くカッコイイんだよ。」

でも僕は本物じゃないじゃないかって思ったんだ。

でもパパが、

「今日来るウル。ラマンは、本物のウルト。マンが選んだんだよ。だからカッコイイよ。」

それを聞いてぼくは、ウ。ト。マンが選んだ偽者ならきつとカッコイイからみてみようかなって思ったんだ。

ウ。ト。マン出てきたよ。

ぼくは

「有り得ない」の一言だよ。

ぼくのパパ凄く小さいんだ。

偽者ウル。ラ。ン ぼくのパパと大きさ変わらないんだよ。

横のおじさんの方が大きいからね。

ぼくはでもでもウル。ラマンが選んだ偽者だがらって、カッコイイんだって暗示をかけながらみたんだ。

でもそれにも限界があつたんだよ。

バル。ン星人出て来たんだよ。

ぼくは首を振る事しか出来なかったよ。

あの偽者ウル。ラマンより大きいんだよ。

しかもこのウ。トラマン足が短いんだよ！

胸が目立つんだよ。

あの足の長さは許せないよね。

ぼくの中で音を立ててウル。ラマンに対する思いは崩れていったよ。

目の前泣き叫ぶぼくと同じ年の子を尊敬したよ。

彼はきつとあの偽ウル。ラマンに気をつかったんだよね。

ぼくはパパにこう言ったよ。

「パパ、ウ。トラマンはきつと都合がつかなくてこんな人に変わりを頼んだよね。」

パパなんですか、困ってたんだよ

そしてぼくはこの怪獣ショーを後にしたんだ。

だめだ。

一話ではぼくのウル。ラマンに対する思いは伝えられないよ。

次回も

「たっくん、ウ。トラマンに騙されるパート2」みてね。

たつくん4歳(2)(後書き)

これからもちょこちょこ書いていきますので、暇潰しにでもみてくださいね。

たつくん4歳(3)

ぼく、たつくん！

まだ4歳なの。

この前ウ。トラマンについて全部話せなかったから、今日は続きなんだ。

たつくん、ショーの後ね、とても悲しかったんだ。

ぼくのヒーローは155cmで片付けられたんだよ。

ぼくは悲しく家に帰ったんだ。

そしたらぼくの大事なウ。トラマンの人形が目の前にあったんだよ。

ぼくは人形をみて思ったんだ。

こんなに足が長いじゃないかって。

ぼくはやっぱリウ。トラマンは正義のヒーローだって思ってその日はウ。トラマンの人形抱っこして寝たんだ。

でもやっぱり、あの偽ウル。ラマン が頭から離れ無いんだよ。

目をつむるとポーズを決めた偽ウルト。マンが現れるんだ。

ぼくはなんで正義の味方に苦しめられているんだろうって思ったんだ。

でもどうにか眠れたんだけど、

偽者は夢の中にも現れたんだ。

ぼくが夢の中で家の中を歩いていると、偽者のウ。トラマンがぼくの家ベランダに立ってるんだよ。

そしてぼくをじっと見ているんだ。

ぼくは後悔したよ。

最後までショーをみなかったから行けないんだよ。

きつとぼくの前泣いてた子の所には彼は来なかったよね。

ぼくは恐くてママを呼びに行こうとしたんだ。

そしたら偽者は窓をガタガタ鳴らして入ってきたんだ。

ぼくは泣き叫びながら目を覚ましたよ。

その日はママに抱っこして貰って眠ったんだ。

まだぼくも4歳だからね、そういう日もあるよ。

え？今もウ。トラマンが好きかって？

ぼくだってそんなに心広くはないよ。

だってあの偽者を選んだのは本物のウルト。マンだってパパが言っていたもん。

ぼくの今のヒーローは仮面。イダー なんだよ。

毎日仮面。イダーの人形でウル。ラマン人形を攻撃するんだ。

ウ。トラマンぼくの中ではやられキャラだよね。

今度パパがデパートの屋上である、仮面。イダーショーに連れてってくれるって約束したんだ。

楽しみだなあ。

じゃあぼくは今から夜ご飯だからまたね。

次回は

「ぼくのお姉ちゃんは。。。」だよ。

またみてね。

たつくん4歳(3)(後書き)

次回は自分の姉について、5歳になったたつくんが語ります。みて
くださいね。

たつくん5歳

ぼく、たつくん！

5歳なの。

ぼくにはお姉ちゃんがいるんだ。

お姉ちゃんは8歳なんだよ。

でもお姉ちゃん変なんだよ。

ぼくのお姉ちゃん、セー。ムーン が大好きなんだ。

いつも変身するまねとかしてるんだよ。

でもぼくも始めは一緒にテレビをみてたんだよ。

そしたらさ、ぼくはマー。ユリーが好きになっちゃったんだよ。

そしたらあの女の人達はみんな15歳だっていうでしょ。

ぼくの幼稚園の前には中学校があるんだよ。

だからずっと中学生をみてたんだよ。

おかしいんだ。

あんなくびれた綺麗な女の人はいないんだよ。

ぼくはまたアニメに騙されたんだって悲しくなったんだ。

でもその日の帰りにママとお姉ちゃんとスーパーで買い物してたんだ。

そしたら凄くくびれたスタイルの、スカートの短い制服を着た、お姉ちゃん達が前にいたんだ。

ぼくは慌てて、

「ママ、あの人達は15歳？」
って聞いたんだ。

そしたらママはあの人達は高校生よって教えてくれたんだ。

お姉ちゃんも

「セーラーMoonだ！」
て大喜びでさ。

ぼくも嬉しかったなあ。

髪も金髪で上で二つ結びなんだよ。

目も回りが真っ白に見えて大きいし。

でもちょっといつもみるセーラー。ーンとは違うんだ。

なんか肌も茶色いし、

唇も真っ白なんだ。

ぼくは気になってママに聞いたたら、似てるけどセー。ーMoonじゃないって聞いたんだ。

だからぼくは納得したんだ。

でもお姉ちゃんは今信じちゃって、

毎日学校から帰ってくるとチヨークで唇を真っ白にして帰ってくるんだ。

ママがいつも怒ってるんだけど聞かないんだ。

ぼくはお姉ちゃんには彼女達がセーラー。ーンじゃなかったんだって言えないんだよ。

だって言ったら今物凄く嬉しそうに笑顔で唇を真っ白にして踊ってるお姉ちゃんはどうなっちゃうの？

ぼくにその勇気は無いよ。

じゃぼくはもうお姉ちゃんを観察するのは心がいたいからこの辺で。

次回は

「たつくん、はじめての恋」だよ。
みてね！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6946d/>

ばく、たっくん！○歳なの！

2010年12月31日14時38分発行